

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ハッピーファミリー東毛呂		公表日	2024年 3月 29日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		スペースを有効活用し、家具の配置や時間調整で利用定員に対応しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		利用状況やこどものニーズに応じて職員のシフトを調整し、支援の質を確保しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		<input type="radio"/>	スペースに限りがあるため、動線の確保やエリアの再配置が必要です。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		こどもたちが楽しめるように、季節ごとの飾り付けや行事に合わせたデコレーションを行い、空間に変化を持たせています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		こどもがストレスを感じた時や、他の子と距離を取りたい時に、すぐに個別スペースが使えるようにスタッフがサポートし、適切に案内しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		定期的なミーティングで職員からの意見や改善提案を募集し、目標設定や振り返りに反映させています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		集まった意見をもとに、サービスの見直しや改善を行い、保護者のニーズに応じた対応を進めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		定期的に職員ミーティングを開催し、意見や要望を自由に話し合える場を提供しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		外部評価の結果をもとに、客観的な視点から業務改善を進める体制を整え、サービスの質を向上させたいと考えています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		法人内での研修も定期的で開催し、必要な知識やスキルの共有を図っています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		こどものニーズに応じた支援プログラムを個別に作成し、定期的に見直しを行っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		こどもの特性や状況を把握するために、定期的なアセスメントを行い、客観的なデータを収集しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者と支援職員が連携し、こどもの最善の利益を考慮した計画づくりに努めています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		職員が計画に基づいて支援を行い、こどもの成長を一貫した方針でサポートできるよう努めています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		日々の活動や行動を観察し、こどもの変化や成長を柔軟に把握するようにしています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		ガイドラインの目標に基づき、こども一人ひとりのニーズに合わせた具体的な支援内容を計画に組み込み、実際の支援に反映させています。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで協力し、こどもの興味やニーズに応じた多様な活動を計画しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節やイベントに合わせて新しいプログラムを定期的に導入し、こどもたちが飽きないよう工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		こどもの特性や状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせた計画を作成し、支援のバランスを図っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に職員全員で打合せを行い、その日の支援内容や役割分担を確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に職員間で必ず打合せを行い、その日の支援内容を振り返っています。支援中に気づいた点や改善が必要な点を職員間で共有し、今後の支援に活かせるようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日の支援内容を詳細に記録し、支援の進捗やこどもの変化を把握しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		こどもの状況や支援の効果を確認するため、定期的にモニタリングを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。			こどもが様々な経験を積めるよう、個別活動や集団活動、生活スキルの練習などを組み合わせ、バランスよく支援を行っています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもの意思を尊重し、小さな決断でも自分で選ぶ経験を通じて、自己決定する力を育てる支援を行っています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		こどもの状況をよく理解している担当職員が、障害児相談支援事業所や関係機関との会議に参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。			地域の保健、医療、福祉、保育、教育機関と連携を図り、こどもが必要な支援を一貫して受けられる体制を整えています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		年間計画や行事予定を学校と共有し、こどもの下校時刻を事前に確認しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			就学前施設との情報共有が断続的になりがちなため、定期的な連絡の仕組みを整え、継続的な情報交換ができるようにしたいと考えています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			移行先へ提供する情報の内容や形式を統一し、支援の引き継ぎがよりスムーズに行えるよう、標準化された書式の導入を検討します。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			児童発達支援センターとの連携が断続的になりがちなので、定期的なミーティングを設定し、安定した情報交換の機会を増やしたいと考えています
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			現在の交流が不定期であるため、放課後児童クラブや児童館との活動をより定期的に行う体制が必要です。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			協議会の他の参加者や関連機関と普段から情報交換を行い、協議会への参加準備を進めます。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			保護者との定期的な連絡や面談を通じて、こどもの日々の状況や成長を伝え合っています。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		族支援に関する情報提供を定期的に行い、継続的に学びやすい環境を整える必要があります。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程、支援プログラム、利用者負担について、保護者に丁寧でわかりやすい説明を心がけています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもや保護者の意思を尊重し、子どもの最善の利益を最優先に考慮した計画づくりを行うよう努めています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		説明後に保護者から計画への同意を得ることで、計画に基づいた支援が保護者の理解と納得のもと進められるようにしています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		談内容に応じて、専門的なアドバイスや子育ての工夫などの助言を行い、家族のサポートに努めています。また、必要に応じて外部機関への紹介も行っています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		きょうだい同士の交流イベントが少ないため、定期的なプログラムや活動を提供し、家族全員が参加しやすい環境を整えることが求められます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情が発生した際には、迅速に状況を確認し、適切な対応を行うことで、保護者や子どもの不安を解消できるよう努めています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		より見やすく、理解しやすいよう、写真やイラストを活用して、活動内容や行事予定をわかりやすく伝える工夫も進めています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報へのアクセス権限を必要な職員に限定し、データの管理体制を厳密にしています。また、個人情報を含む資料の保管や廃棄方法にも細心の注意を払っています。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者の理解度やニーズに合わせ、ゆっくり話す、確認を繰り返すなど、柔軟な対応で情報がしっかりと伝わるよう配慮しています。また、必要に応じて書面での補足説明も行っています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域住民への案内が十分でないことがあるため、チラシの配布や地域の掲示板、SNSなどを活用して、行事情報をより多くの人に伝えられるよう改善します。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時の対応力を高めるため、定期的にマニュアルに基づいた訓練を実施し、職員が迅速かつ確に対応できるようにしています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		害時にも支援を継続できるよう職員に周知しています。非常災害に備え、定期的に避難や救出の訓練を実施し、職員が適切に対応できるよう訓練を重ねていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		子ども一人ひとりの服薬状況、予防接種履歴、てんかん発作の有無など、健康状況について事前に保護者から詳細を確認しています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギー対応の方法や注意点を職員全員に周知し、調理や食事提供の際に細心の注意を払っています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、職員全員にその内容を周知することで、全員が安全管理の重要性を理解しています。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に対する家族の意見や質問を受け付ける場を設け、計画の改善に家族の視点も反映できるようにします。
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々の業務で発生したヒヤリハット事例を全職員で共有し、注意喚起を図っています。	

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修を定期的で開催し、全職員が知識を深め、適切な対応ができるようにしています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○		身体拘束の基準や方針について定期的に見直し、最新のガイドラインや事例に基づいた対応を維持できるよう改善します。